

直接指導のタイミングとガイド学習の工夫



# 「自立的・協働的な学び」を 重視した授業づくり

～ 算数科の実践より ～



※ガイド学習>間接指導時に、児童(学習の進行役)がリードしながら、学習の流れに沿って学習を進める学習形態の一つ

## これまでの授業の反省点(教師)

間接指導時には、児童自らが工夫して学習を進められるようになってほしい。

教師が効率的に授業を進めるために、先回りして指示を出したり、手厚くサポートをしすぎたりしてしまう。

そのため、間接指導時など、教師が直接指導をしていない時、**児童が自分で考えて工夫をしながら学習を進めることが難しく、学習や活動が滞ってしまう。**

学習の課題解決方法を共有する場面などで、教師と児童のやり取りが中心となり、児童同士のやり取りが少ない。

そのため、児童が自信をもって自分の考えを伝えられず、友達の考えに対しても質問や意見を発信しにくいなど、**受動的な学習や活動となり、考えが広がったり深まったりしにくい。**



児童同士で意見交流を活発に行い、考えを広げたり深めたりしてほしい。

## 授業改善のポイント



- ◆ 教師が児童と意図的・計画的な関わり方（指導・支援）ができるように**直接指導で行うことを明確にする。**
- ♥ 児童が間接指導時にも主体的に学習できるように**ガイド学習を活用し、学習過程を明確にする。**
- ♠ 児童が主体的に問題解決をすることができるように**課題設定の仕方を工夫する。**



◆ 教師が児童と意図的・計画的な関わり方ができるように

直接指導で行うことを明確にする。



## 直接教師が児童と関わる必要がある5つの場面

### ポイント

「教師が教えるところ」と「児童に任せるところ」を明確にして、「わたり(※①)」や「ずらし(※②)」をどの場面で行えばよいか、また、どのように学習過程を組み立てればよいかを考える。

### 1 課題設定の場面

- 教師が直接関わって課題を伝えることで、全員に「この時間は何をするのか」という共通理解を図ります。また、この時に解決の見通しをもたせておくと、間接指導時の自力解決につながります。

### 2 自力解決中に個別指導が必要になった場面

- 児童の手が止まっているなどのつまづきが見られた場合は、教師が直接関わって個別指導をします。

### 3 集団解決中に話し合いを軌道修正する必要がある場面

- 話し合いの内容が指導したい意図とは違う方向に進んでいる場合や停滞している場合もあります。その時は、教師が指導に入り「何を話し合うのか」等を再度確認するなど軌道修正を行います。

### 4 一人学年(※③)における話し合い活動の場面

- 一人学年は話し合う相手が必要なため、自力解決後に教師と一緒に話し合い、考えを広げたり深めたりできるようにします。

### 5 学習のまとめの場面

- 集団解決後、児童が話し合った内容に対して、教師が問い返しを行うなどして重要な点を確実に押さえたり、児童の考えをより広げたり深めたりできるように働きかけます。



※①>ある学年から他の学年へ交互に移動して直接指導をしていく教師の動き  
※②>効率よく「わたり」を行うために指導段階を学年別にずらした組合せ  
※③>複式学級において、児童が一人の学年

# ♥-1 児童が間接指導時にも主体的に学習できるように

# ガイド学習を活用し、学習過程を明確にする。



全学年共通

算数の学習の進め方

【例】1人学年と複数学年の複式学級での学習の進め方

先生と一緒に話し合う学年	自分たちで話し合う学年
めあてを確認し、活動に見通しをもつ	直問 復習をする
自分で考える 発表の準備をする	問直 めあてを確認し、活動に見通しをもつ
発表 話し合う（先生がリーダーも可） ※ 話し合いの仕方を見ながらすすめる。	直問 自分で考える 発表の準備をする 「自分で解いてみましょう。時間は、〇〇分です。（〇〇分までです。）」 「できた人は、発表の準備をしましょう。」
まとめを考える 振り返りをする	直問 発表 話し合う 「時間になりました。みんなで話し合いをします。～」 ※ 話し合いの仕方を見ながらリーダーを中心にすすめる。 ※ 必要に応じてヘルプカード、オッケーカードを使う。
練習をする	問直 先生に話し合ったことを伝える みんなでまとめを考える 「今日のまとめをします。きょうのめあては、～です。めあてに合うまとめのことばを考えましょう。」 「どんなまとめがいいとおもいますか。発表しましょう。」 「まとめは、～に決めました。まとめをノートに書きましょう。」 「まとめをみんなで言いましょう。」 振り返りをする 「今日の学習の振り返りをノートに書きましょう。」

「先生と一緒に話し合う学年」は、一人学年のことです。

一人学年は、教師と一緒に話し合うため、直接指導になります。

話し合い後、リーダーは話し合ったことを教師に伝え、教師と一緒に全体でまとめを行います。

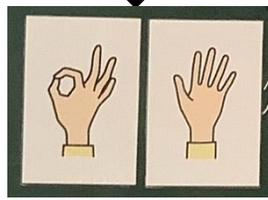
リーダーを中心にみんなで協力して勉強をすすめましょう。

授業の始めに、学習の流れ(例:「算数の学習の進め方」)を示します。

自力解決、集団解決は、間接指導に位置付けます。教師は、自力解決や話し合いの様子を見守り、必要に応じて指導に入ります。できるだけ児童に任せるように心掛けると、粘り強く課題解決しようとする力が育ちます。

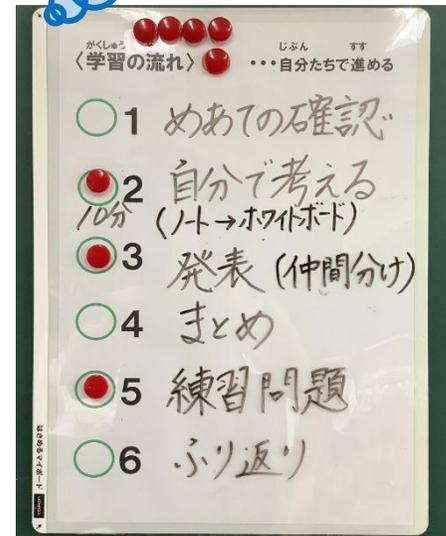
学習の流れを提示し、間接指導の項目には、赤磁石を貼ります。間接指導時は、学習リーダー（輪番制）を中心に児童だけで学習を進めます。

話し合いの途中で、どうしても教師に支援してほしい場合は「ヘルプカード」、全員の考えがまとまった時は「オッケーカード」を黒板に貼ります。



ポイント

簡単な学習内容や学習方法、時間などを示した学習の流れを提示すると、児童が授業全体の流れをつかみ、見通しをもって学習に取り組むことができます。また、「課題把握→自力解決→集団解決→まとめ→振り返りや適用問題」という流れで学習過程をパターン化することも効果的です。



ここで  
アルファ  
+ α

一人学年の児童が学びを深めるための3つの工夫



① 教師が「児童役」となって話し合う。

教師は、児童役として椅子に座って発表を聞き、質問をしたり意見を述べたりします。児童の思考を揺さぶり、言語化を促します。

② 多様な考えに触れさせる。

教師が、児童役になって、別解や誤答を提示したり、蓄積している過去の児童の考えを活用したりしながら、思考を広げたり、深めたりできるようにします。

③ 共通の振り返りを取り入れる。

異学年交流を取り入れ、学んだことを確認し合うことで、異なる問題を解いていても「考え方の本質は同じ」であることに気付かせたり、互いの学びを価値付けし合ったりすることができます。

7あまり2の7は何を表しているんですか。

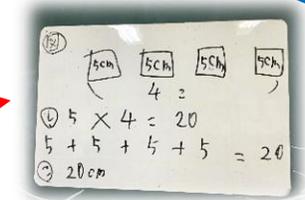
質問はありませんか。

なるほど。そういう考え方があるのか。

私は、〇〇さんと違って…。



ロイロノートに過去の児童の考えを蓄積しておき、必要に応じて見せることができるようにしています。



ポイント

一人学年でも多様な考えに触れさせたり、異学年交流を取り入れたりとすることで、一人学年の学びを充実させることができます。



## ♥-2 児童が間接指導時にも主体的に学習できるように

ガイド学習を活用し、  
学習過程を明確にする。



集団解決で話し合いをする時には、「話し合いの仕方」マニュアルを活用して学習リーダーを中心に話し合います。

「話し合いの仕方」は2パターン作成し、学習内容や自力解決時の児童の様子に応じて、教師がどちらのパターンで話し合いをするか児童と相談します。

### 「仲間分けをしてから 発表パターン」

- ① 図や式などを見て考え方を読み取り、みんなの考えを仲間分けする。
- ② 各グループの代表者が発表する。
- ③ どの考え方が適切か話し合う。
- ④ 学習リーダーを中心に考えを整理する。

全学年共通

話し合いの仕方

リーダーの言葉	
「時間になりました。みんなで話し合います。」	
仲間分けをしてから発表パターン	発表をしてから仲間分けパターン
「仲間分けをしながら自分の意見を出しましょう。」	「自分の考えを発表しましょう。」
「仲間分けができたら」	「一人の発表が終わったら」
「Aの考えの人発表してください。」	「質問や意見がある人はいますか。」
「Aの考えの人、つてだしはありませんか。」	※ 順番に全員発表する。
「質問や意見がある人はいますか。」	※ 自分の考えが最後までかけていない人も書いていくところまで発表し、どこで悩んでいるのかを伝える。
「Bの考えの人発表してください。」	みんなの発表が終わったら
「Bの考えの人、つてだしはありませんか。」	「みんなの考えを聞いて、悩んだことをみんなの発表が終わったら」
.....	「みんなの考えを聞いて、悩んだことを発表しましょう。(考えが似ているや違う等)」
「みんなの考えを聞いて、悩んだことを発表しましょう。(考えが似ているや違う等)」	※ 意見を聞きながら考えを仲間分けしたり、黒板やタブレットに言葉をつけたしてもよい。
※ 意見を聞きながら考えを仲間分けしたり、黒板やタブレットに言葉をつけたしてもよい。	「この中でどの考えがよいと思えますか。理由も発表しましょう。」
「この中でどの考えがよいと思えますか。理由も発表しましょう。」	みんなの考えがまとまったら
みんなの考えがまとまったら	オッカーカードを黒板にはる。
オッカーカードを黒板にはる。	

### 「発表をしてから 仲間分けパターン」

- ① 順番に一人一人の考えを発表する。
- ② 互いの考えを比較しながらみんなの考えを仲間分けする。
- ③ どの考え方が適切か話し合う。
- ④ 学習リーダーを中心に考えを整理する。

話し合っていくうちに「同じ考えだと思ったけれど違った。」  
「実は友達と考え方が一緒だった。」ということに気がきます。

友達との話し合いで自分の考えを修正しようと思った時は、赤で記入するなど、話し合いの過程を残すようにします。

### ポイント

各自の考えを比較しながら類型化させることで、共通点や相違点を可視化して論点を整理し、学習のまとめに向かえるようにします。

私の考え方は  
〇〇さんと一緒かな。  
違うかな。



♠ 児童が主体的に問題解決をすることができるように

課題設定の仕方を工夫する。

ポイント

学習課題は、児童から引き出した言葉を基に作ります。

【本時の最初の会話】 T：教師 S：児童 2年生一人学年の実践より

T：昨日の筆算とどこが違うかな。

S：2 - 3ができないところです。

T：引けないところがあるんだね。

昨日は？

S：昨日もあったけど、今日は2つあります。

T：2つって？

S：2 - 3と4 - 8が引けません。

T：じゃあ、今日はどんな学習課題を解決しますか？

S：「2つ引けない筆算はどうやってすればいいだろう。」がいいと思います。

T：2つ引けないことを解決したいね。

昨日は、どんな筆算の解き方を考えたかな？

S：十の位が引けない筆算でした。

T：十の位というと、よく分かるね。じゃあ、今日はどんな学習課題になるのかな？

S：「十の位と一の位が引けない筆算はどうやってすればいいだろう」です。

$\begin{array}{r} 135 \\ - 72 \\ \hline 63 \end{array}$	$\begin{array}{r} 142 \\ - 83 \\ \hline \end{array}$
〈前時〉	〈本時〉

学習課題を児童から出た言葉を基に立てると、課題意識が高まり、間接指導時も主体的に問題解決を行うことにつながります。



CHECK①

学習課題は、教師が提示するのではなく、**児童から引き出した言葉**を基に作ります。

CHECK②

教師が前時の学習を想起させながら、**取り組む学習課題を焦点化**します。



CHECK③

「どうすれば~できるのだろう？」「なぜ~なのだろう？」といった**児童が主体的に問題解決に向かえる**学習課題にします。

# 実際の授業実践

第3学年（6名）「式と計算」  
第4学年（4名）「面積」



教師との課題設定までに、児童だけで問題把握（前時との違いを考えるなど）を行い、考えを深めておきます。

## 授業構成

第3学年	わたり	第4学年
問題提示 課題設定 「代金を求めるにはどうすればよいただろう。」	直 間	練習問題 問題提示
自力解決 ロイロノートを活用し、図を線で囲んだり、式に表したりして自分の考えをもつ。 ※共有ノートを使う。	間 直	課題設定 「まず目がない長方形と正方形の面積を求めるには、どうすればいいだろう。」
集団解決 スクリーンにロイロノートの共有ノートを映し出し、一人一人発表し、その後、比較しながら仲間分けをしていく。	直 直	自力解決 面積を求める方法を考える。
まとめ 課題に対するまとめを考える。	直 間	集団解決 ホワイトボードを黒板に貼り、話し合う。
適用問題	間 直	まとめ・振り返り 課題に対するまとめの言葉を考える。
振り返り	直 間	適用問題

### 自力解決



ヒントカードをタブレット上に準備しておき、必要に応じて見ることができるようにしました。

### ポイント

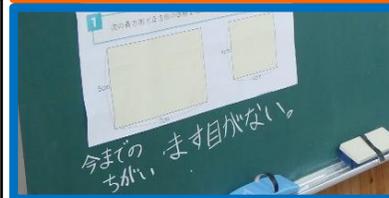
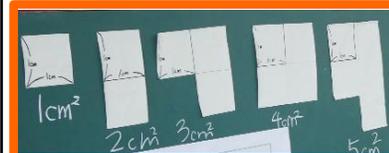
同時直接指導を取り入れると、教師が両学年の様子を見取り、状況に応じて支援することができます。

### 集団解決



ICTの活用により、考えが視覚化され、話し合いがしやすくなります。また、教師が離れた場所においても児童の様子を把握することができます。  
集団解決の途中で教師が入り、軌道修正を行うこともあります。

### 練習問題・問題提示



① 練習問題で既習事項の確認をし、本時で大切となる1cm<sup>2</sup>の正方形を意識づけます。

② 本時の問題を提示し、前時までの違いを考えさせます。



今までの違いはどこだと思いますか。  
(学習リーダー)

### 自力解決が早く終わったら…

ノートに説明文を書いて発表の準備をする  
ICTで個別学習をする(例：EILSの練習問題)



### ポイント

早く終わったら何をするのかを示しておき、児童が自分で学習を深めたり、習熟を図ったりすることができますようにします。

## 授業改善の成果

- ガイド学習を活用し、問題解決学習の授業を積み重ねたり、直接指導が必要な場面を明確にして指導に当たったりしたことにより、児童が主体的に学習を進めようという意識が高まり、児童の学習に対する自主性・主体性が身に付いた。
- 児童の言葉を引き出し、児童自身が問題解決に取り組める学習課題を設定することで、児童が課題を自分事として捉え、主体的に解決していこうとする態度が見られるようになった。また、学習課題とまとめの整合性が図られることが多くなり、児童が「分かる」「できる」を実感することにもつながった。
- 「話し合いの仕方」マニュアルを活用したり、教師が別解や誤答を提示したりするなど他者との対話を大切にした授業を行うことで、児童が自分の考えと比較したり、一番よいと思う考えを選んだりしようという意識するようになった。

少人数の複式学級では、全員に発表の機会があり、全員の意見を共有しやすいという利点があります。そのよさを生かし、一人一人を大切にした児童主体の授業にしていきましょう。

